# 成人おめでとう

## 令和3年 行方市二十歳のつどい

### 大人への第一歩を踏み出した353人の新成人たち

1月10日(日)、行方市文化会館において、令和3年行方市二十歳のつどいが開催されました。

今年の新成人は、平成12年4月2日から平成13年4月1日までに生まれた市内在住者および市内出身者353人です。

新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた会場では、晴れ着に身を包んだ新成人たちが、久しぶりに会う友人と写真を撮ったり近況を語り合ったりと、マスク越しにたくさんの笑顔であふれました。

式典の企画・進行は、新成人で構成する実行委員が中心となって行いました。会場では、ソーシャルディスタンス確保の呼びかけや式典後の行動自粛の注意喚起などしながら、それに応じた一人一人の協力により、和やかな式典となりました。

市長からは「長い人生では、良いときもあれば、物事が思うようにいかないときがたくさんある。今を含め、そのようなときこそ焦らず、自分自身ができること、本当にやりたいことを見つけてほしい。皆さんには、自ら挑戦し、自ら決断し、困難があっても乗り越え、自分自身で幸せをつかめる大人になって」と励ましの言葉がありました。

式典後のアトラクションでは、新成人を代表して2人が、ピアノとサックスで2曲をセッションしました。

新たな未来に向けて羽ばたく新成人の皆さんの、今後のご活躍を期待しています。

見てみっぺ!

### 令和3年行方市二十歳のつどい実行委員紹介

※順不同、敬称略

羽生雄大　小田倉翔　五十嵐拓未　仲野日菜子　前嶋千穂　箕輪祉美
大和田敦也　塙悠己斗　髙正真子　根本　海　横田未来
小林健太朗　曽根雄大　風間可奈子　新堀未来

▲記念品贈呈　市長から新成人代表　髙正真子さんへ

▲成人者代表謝辞　二十歳のつどい実行委員長　羽生雄大さん

### 感染症対策を万全にして、式典が挙行されました

【1】参加者全員マスクの常時着用の徹底、職員のマスクおよびフェイスシールド常時着用
【2】事前チェックシートによる来場者の確認（参加者の体調確認）。緊急事態宣言地域からの参加者には、事前チェックシート以外にも、当日会場にて体調確認シートへ記入
【3】保健師・看護師による全てのチェックシートの確認ならびに検温。会場に入るまでに、3回の検温チェック（非接触型体温計、サーモカメラ）
【4】新型コロナウイルス感染症対策アプリ（「いばらきアマビエちゃん」）への登録
【5】アルコールによる手指の消毒
【6】参加者の制限（新成人以外の入場を制限）
【7】座席間距離の確保（座席の前後左右を空けて着席）
【8】会場内での私語の禁止
【9】会場内の消毒と十分な換気
【10】式典前後の会食・宴会・カラオケ等の自粛についてアナウンス（事前に、市ホームページでも注意喚起したほか、式典当日に新成人全員に文書で配布）

# こんなことがありました。
# みんなが生まれた20年前。
## 平成12（2000）年→平成13（2001）年

- 新紙幣二千円札発行（平成12年7月）
- シドニーオリンピック開催（平成12年9月）
- ＢＳデジタル放送開始（平成12年12月）
- 21世紀がスタート（平成13年1月）
- 流行語…「おっはー」「ＩＴ革命」「自己チュー」「ミレニアム」など
- ベストセラー…「だからあなたも生きぬいて」（大平光代）「命」（柳美里）など
- 映画…「劇場版ポケットモンスター／結晶塔の帝王　エンテイ」「M：Ｉ－2」など
- ヒット曲…「TSUNAMI」（サザンオールスターズ）「らいおんハート」（SMAP）など

1

2

3

4

5

6

7

8

【写真の説明】
①ソーシャルディスタンスを確保した座席（前後左右を空けて着席）　②入場前の検温　③密にならない動線を確保した受付。こちらで、事前チェックシート等の確認を行いました　④「いばらきアマビエちゃん」への登録を案内　⑤全てのチェックが済んだ方へ検温済証（青いリストバンド）の装着　⑥演台には飛まつ防止対策のアクリル板を設置。マイクの消毒を実施　⑦マスク着用の徹底　⑧実行委員らがソーシャルディスタンスの確保を呼びかけ

## アトラクション
## ピアノ・サックス演奏

○演奏者　新成人代表
　根本　海さん（ピアノ）　北浦中出身
　久米愛海さん（サックス）北浦中出身
○曲目
　スカラムーシュ第３楽章「ブラジレイラ」
　「アディオス・ノニーノ」

　このアトラクションは、二十歳のつどい開催にあたり、実行委員が企画しました。演奏は、新成人代表で北浦中出身のお二人。ピアノとサックスのセッションで、素晴らしい音色を届けてくれました。
　この時間を通して、会場の皆さんは、今までの20年間を振り返り、将来に向けての決意を新たにすることができたようです。

祝・成人

# 成人を迎えての抱負　－成人者代表発表－

箕輪祉美さん

本日は、このような素晴らしいつどいを開いてくださり、誠にありがとうございます。また、今日まで育て上げてくれた家族、そして、ご指導いただきました諸先輩方に、心より感謝申し上げます。

私は、現在、茨城高専で情報関係の勉強をしています。そして、4月からは、高専で学んだことを生かして、情報インフラの構築などを行う企業で働く予定です。私は、開発途上国の支援を行う分野のＩＣＴの利活用に興味があります。開発途上国の支援を行うことに興味を持ったのは、単純に、自分が恵まれていると思ったからです。安心して過ごせる家があって、今日食べるものに困らず、学びたいことを勉強することができる。さらには、自分の夢を自由に描くことができる。これらのことを、全て不自由なく実現できる人は、世界的にみると、そう多くはありません。この現状を変えるために仕事をしている人がいると知り、私は、国際協力の分野に関する仕事をしたいと思いました。特に自分は、情報・通信に関する知識を習得しているため、それらを活用すれば、従来とは異なるアプローチで支援ができるのではないかと考えました。

とは言っても、途上国支援を行う分野は、多岐にわたります。私はまず「教育」の分野に方向性を決めました。なぜなら、適切な教育を受けることで、正しい知識が身につき、読み書きができるようになるからです。それによって、以前よりもだまされにくくなったり、収入のよい職業に就くことができるようになったりします。教育支援を充実させることが、将来、その国の人が自立して安定した生活を送ることの手助けになると思います。

そして、このような道を選んだ以上、家族に心配をかけることが、これまでより多くなると思います。だからこそ、努力することと同様に、自分を大切にしていかなければなりません。自分の生き方は自分で決めるつもりですが、自分の身を案ずる人がいることを肝に銘じて、生活していきたいと思います。

結びに、これまでお世話になりました多くの方々に感謝申し上げます。また、これから出会うさまざまな方に対しても、感謝と思いやりの気持ちを忘れずに接していきたいと思います。

新堀未来さん

本日、私は、成人という大きな人生の節目を無事に迎えることができました。この日を無事に迎えることができたのは、家族や、今までお世話になった恩師の方々のおかげです。本当に感謝しています。

私は、現在、専門学校で介護福祉士になるための勉強をしており、来年の3月には、学校を卒業して社会人となります。そのような私が、二十歳を迎えて思ったことは「人はいつも誰かの助けを借りて生きている」ということです。介護福祉士の免許を取得するためには、老人ホームへ介護の勉強に行く「実習」というものがあります。そこには、施設の特性にもよるのですが、多くの方に認知症がみられ、排せつや食事、移動などに日常的な介護が必要な人、病気や筋力低下、全身が拘縮して体が固まり、寝たきりとなった人、ご飯が食べられなくて、お腹や鼻からご飯を入れて必死に生きている利用者の方々がたくさんいます。

これまでの実習を通じ、利用者の方々と接する中で、病気に苦しみながらも笑って生きている方、病気やけがを治すため施設でリハビリをして、家に帰ろうとしている方がいることを知りました。そして、私が目指している介護福祉士もまた、そこに深く関わっていることを実感し、自らの目標に、より一層誇りを持つようになりました。また、そのような利用者の方々の姿から、私も、両親に対して、学校の奨学金や車の事故、ここまで育ててもらう中で、多くの心配をかけて生きてきたこと、それでも、両親は笑って面倒を見てくれていたことを思い出すことができました。

今までの経験から、私は、これからも両親や周囲の方々に心配をかけてしまうこともあるかと思いますが、ただ、心配をかけたことを「謝る」のではなく、面倒を見てくれた方々への「感謝」を示し、自分が今関わっている利用者の方々のように、心から笑って、これからの長い人生を生きていきたいと思います。

※代表者発表を抜粋して掲載しています。